

神拝校区 タウンミーティング開催報告

【日 時】 令和6年9月17日（火） 19：00～20：30

【場 所】 神拝公民館

【参加者】 地域：10人（神拝校区連合自治会長など）
市：3人（市長、危機管理監、神拝公民館長）

【テーマ】 災害に強い神拝校区をつくるために

概 要

参加者の発言要旨

市の発言要旨（及び対応）

1 情報発信・共有について

令和6年8月8日に、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことをきっかけに、危機感を持った市民が多いと思う。
災害に強くなるために、平常時から何ができるか等、意見交換したい。

地震による津波が発生した場合、4時間後に神拝小学校に20cmの津波が到達し、6時間後には校区のほぼ全域が浸水する想定である。
加茂川が氾濫した場合も、校区全域が浸水する想定である。避難行動のポイントとしては、「命が助かる」ことを優先してほしい。
地域の特性を踏まえた地区防災計画を策定し、皆さんがしっかり理解することが一番大切な取り組みだと思う。

事前避難した地域があったようだが（補足：高知県等）、西条市で避難指示がなかったのはなぜか。

今回、発表されたのは「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」であり、地震発生後の避難では間に合わない可能性のある住民に事前避難が求められる「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」ではなかったため、避難指示等を発令していない。

県が発表している最大津波の高さは3.4mとあるが、このことを正しく理解できている人がどれほどいるのだろうか疑問に思う。
同じ場所でも潮の満ち引きなどで実際の津波の高さは異なってくる。

「津波の高さ」が朔望平均満潮位（※）を含んだものであることはあまり認識されていないのかもしれない。
しかし、お住まいの場所がどれくらい浸水するのかということが気になると思う。
例えばこの神拝公民館では、1m前後浸水することになっている。これは地震の揺れにより堤防や水門が全部壊れるなど、県が当時の科学的知見に基づき想定しうる最大の被害を計算した結果であるが、これ以上又はこれ以下の規模の地震や津波となる可能性もあり、それを正確に想定するのは不可能である。詳細は、愛媛県のホームページにある「津波災害警戒区域について」をご覧ください。

※新月（朔）と満月（望）の日から前2日後4日以内に観測された各月の最高満潮面を1年以上にわたって平均した高さの水位

気象台から、山間部を想定して西条市に土砂災害警戒情報が発表されることがある。市全域に発表しなくても良いのではないか。

気象台は市町単位で土砂災害警戒情報等の防災情報を発表している。そのため、仮に山間部の地域で土砂災害が予想される場合でも、西条市への防災情報として発表される。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p>平常時から防災行政無線の音が割れて聞き取りづらいので、少し工夫した方がよいのではないかと。</p>	<p>防災行政無線の放送について、音の反響や気象条件により聞き取りづらいという声があるが、現在の技術では、全ての気象条件下で全員がクリアに聞き取れるということは不可能である。</p> <p>そのため、防災情報は様々な媒体で発信する多重化を推進している。例えば避難指示等を発令する際は、防災行政無線放送の他に、携帯電話に緊急速報メールを送信したり、NHKのデータ放送、ホームページ、SNS等で避難情報を発信しており、防災行政無線による避難指示等が聞き取れなかった場合は、テレビやスマートフォン等で内容を確認していただきたい。</p>
<p>いろいろな防災研修を受けるが、講師の先生によっては情報がバラバラで統一性を感じられない場合がある。</p>	<p>災害対応は、様々な状況に応じて判断する必要があることから、答えは一つではない。</p> <p>例えば、災害発生後、必ず指定避難所に避難しなければいけないというわけではなく、自宅が安全であれば、自宅にとどまる避難もある。</p>
<p>誰でも理解できるように、わかりやすい言葉で情報発信してもらえれば、正しく恐れることができる。</p>	<p>おっしゃるとおりで、特に周知の方法が重要だと思っている。</p>
<p>市ホームページ上で、神拝小学校と神拝公民館が緊急避難施設になっているが、地震と火災の欄にはバツ印が入っている。これはどういう意味だろうか。</p>	<p>地域防災計画の中の「指定緊急避難所一覧」のことだと思うが、「地震」と「火災」の欄にバツ印が入っている場合は、校舎・体育館、公民館（建物）は避難場所として使用できないという意味である。</p> <p>地震直後は、校舎・体育館等の建物は、躯体の損傷、天井の崩落等により避難場所として使用できない可能性があるためである。</p> <p>「火災」は大規模火災のことを指しており、延焼の可能性のある「建物」は全て不適としている。</p> <p>地震・大規模火災時には「上から物が落ちてくることが無い」、「建物の延焼の可能性の無い」広い土地を緊急避難場所としている。</p> <p>また、洪水や津波、高潮の浸水区域に入っているため、それらの災害時には「建物の2階又は3階以上の部分に限り緊急避難場所とする。」と備考欄に記載している。</p>
<p>2 神拝校区での避難について</p>	
<p>災害時、誰が避難所となる学校の体育館の鍵をあけるのか。</p>	<p>警報が発表された場合、施設管理者として教頭先生等が常駐するようになっているが、例えば地震発生後の避難時、命が危険にさらされるような場合、誰もいないようであれば、ガラス窓を叩き割り入ってもらって構わない。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
<p>備蓄品が何もなければ避難所として機能しない。少しでも予算を組んで、簡易トイレなどを備蓄してほしい。</p> <p>足りない部分は、我々保護者で対応することも考える。</p>	<p>神拝小には、携帯トイレ（便袋と凝固剤）700セット、毛布110枚のほか、発電機や投光器などを置いている。</p> <p>これで十分とは言えないので、今後も計画的に予算を組んで増やしていきたいと考えている。</p> <p>また、避難所に避難される場合には、3日分の食料や水、生活必需品を各自携行してきていただきたい。</p>
<p>神拝小学校の120周年記念式典の時に、消防のはしご車両が来てくれたが、当時進入路だった場所に現在遊具が設置されている。</p> <p>避難所となる場所に、はしご車両が入れない状態では困るのでなんとかしてほしい。</p>	<p>状況について確認する。</p> <p>【後日対応】 消防と協議の上、はしご車両が進入できるよう対応済。</p>
<p>地域内の協力的な防災士は65歳以上の人が多く、防災訓練を行っても、同じ顔ぶれで広がりを感じられない。</p>	<p>地域での話し合いから、避難訓練を実施するまでかなり時間を要すると思うが、最初の一步が重要だと思う。地区内に立地する企業を巻き込んで実施している地区もあるようだ。</p> <p>南海トラフ地震のような大規模災害が発生した場合、行政だけの力では足りず、地元の方々のみで避難所を運営することが予想されるので訓練は重要である。</p> <p>地域住民全員が訓練に参加し、地域のことをわかってもらえるような地域づくりが理想である。</p>
<h3>3 避難行動要支援者支援制度について</h3>	
<p>避難行動要支援者支援制度では、何人くらい個別避難計画が作成されているのだろうか。</p> <p>自分の地区の高齢者は、約半数の人が個別避難計画を作成したいと思っているが、独居世帯が多く、地域支援者2人を見つけることが難しい状況である。</p> <p>神拝校区はマンションが多く、自治会加入率が低い。まずは自治会が立ち上がり、関係団体と一緒に動いてはどうか。</p>	<p>西条市での個別避難計画作成者は約270人で、市全体でみても、ほんのわずかである。</p> <p>最近は地域への帰属意識も希薄化しているが、近所や自治会、関係団体での助け合いがなければ進展しない制度である。</p>
<p>自宅で夫の介護をされており、もし地震が起こったらどうすればいいか心配だ。</p> <p>市に個人的に相談すればよいのだろうか。</p>	<p>この制度は地域の方々の協力ができないので、できれば地域の方々が集まる場でご説明させていただきたい。</p>
<h3>4 平常時にできること</h3>	
<p>普段から就寝時に枕元に運動靴を置いている。地震が起こった際、足元をガラスの破片などから守る必要があると思っている。</p>	<p>公助の手が届きにくい大規模災害等の時は、特に自助の部分をお願いしたい。</p> <p>非常用持ち出し袋については、最初に持ち出すものと揺れが収まった後に取り出すものといったように、袋の大きさでなく、運び出す時間差で分けて準備するようにすればよい。</p>
<p>自分の身は自分で守ることが第一で、家族の無事が確認できたら、地域の安全はどうかと、安否確認する範囲を広げていきたい。</p> <p>最低でも3日間、できれば1週間分の食料を用意しておこうと思う。</p>	
<p>自分も含め、防災（非常用持ち出し）袋の準備ができていない人が多い。必需品と水を入れたら、バックが満杯になってしまったので、旅行鞆のような大きいものを準備しようと思う。</p>	